

# 日本生協連

## SDGs 取り組み方針 2019



### 【コープ SDGs 行動宣言】

1. 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます
2. 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します
3. 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します
4. 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します
5. ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します
6. 誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します
7. 健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

## 取り組み方針 2019 の策定にあたって

### ■「持続可能な開発目標（SDGs）」とは

2015年9月、国連で「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されました。SDGsは、未来にわたって地球と社会が望ましいかたちで持続できるよう、2030年までに実現すべき課題を17つの目標と169のターゲットとして表現したものです。

これらの目標は、貧困・飢餓や差別・不平等といった社会問題とともに、地球温暖化や生物多様性など環境問題の統合的解決を目指しており、その重要性が理解されるにつれ国内外でSDGsに対応した取り組みが広まってきました。

### ■特別アピール「コープSDGs行動宣言」

そうしたなか、日本政府は2016年にSDGs実施指針を決定しました。協同組合は同指針に明記されるSDGsの推進主体（ステークホルダー）のひとつであり、生活協同組合がSDGsに貢献する取り組みをより一層強めることが期待されています。

SDGsのベースになっている「誰も取り残さない」という理念は、生活協同組合の理念や活動と重なっていることから、2018年6月に開催された第68回日本生協連通常総会にて、具体的な7つの取り組みを通じてSDGsの実現に貢献することを約束する「コープSDGs行動宣言」を採択しています。

### ■SDGs方針2019の策定にあたって

2018年12月、日本生協連は第2回「ジャパンSDGsアワード」において、SDGs推進副本部長（内閣官房長官）賞を受賞しました。エンカル消費に対応するプライベートブランド（CO・OP商品）の開発や、SDGs達成にむけた全国の生協でのさまざまな事業・活動の取り組み、またその支援を高く評価いただきました。今後もSDGsの推進において、より一層の役割発揮が求められます。

2019年はSDGsが採択されて5年目の年にあたります。この間、SDGsの意義や内容は徐々に国内へ浸透し、自治体や企業、市民団体や教育機関など様々な主体が具体的な実践に着手し始めています。

こうした動きのなか私たち日本生協連は、昨年策定したSDGs方針2018を深掘りすべく事業プロセスの見直しを進め、「持続可能な生産と消費」「気候変動対策」「地域社会づくり」の領域で新たな実施計画を加えたSDGs方針2019を策定しました。

日本生協連は、引き続き全国の生協とともに、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

2019年5月

# I. 「日本生協連 SDGs 取り組み方針 2019」

「コープ SDGs 行動宣言」7つの柱に沿って、以下の18個の具体的な方針を定めました。

コープSDGs行動宣言	日本生協連 SDGs 取り組み方針 2019
1. 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます	①【新規】持続可能な生産と消費のために、食料・農業政策づくりを進めます
	② エシカル消費対応商品の開発や普及を通じて、組合員のエシカル消費に対する理解と利用拡大を進めます
	③ プラスチックごみや森林資源の枯渇などの問題へ対応するため、環境に配慮した包材への切り替えを進めるとともに、包材そのものの減量化に取り組みます
	④ サプライチェーン全体における食品ロス削減に取り組むとともに、日本生協連として商品廃棄の削減を進めます
	⑤ 調達先ならびに会員生協とともに、安全衛生・品質管理レベルの向上に取り組みます
	⑥【新規】取引先とのパートナーシップにより「責任ある調達」を推進します
2. 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します	⑦ 「2030 環境目標」にコミットし、2030 年を視野に入れた温室効果ガス削減の取り組みを推進するとともに、会員生協の 2030 年に向けた削減計画の策定支援を行います
	⑧ 2030 年の再エネ開発目標(2030 年度に 300MW) 実現に向け、再生可能エネルギーの電源開発を推進します
3. 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します	⑨ 国際機関との連携や寄付金付商品等の展開を通じて、世界から貧困と飢餓をなくす取り組みを支援します
4. 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します	⑩ 核兵器廃絶、被爆・戦争体験の継承の取り組みなど、平和な社会を目指す活動を推進します
5. ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します	⑪ 全国の生協で働く女性が活躍し、役割発揮できる職場づくりを支援します
	⑫ 日本生協連で働く女性職員をはじめ様々な世代・雇用形態の職員が、健康に働き、能力発揮できる職場づくりを推進します
6. 誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します	⑬ 子どもや高齢者、障がい者など様々な人々が暮らしやすい地域社会を目指して、諸団体と連携した取り組みを進めます
	⑭ 被災地ならびに被災地生協への復興支援の取り組みを推進します
	⑮【新規】災害に強い地域・組織づくりに取り組みます
7. 健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます	⑯ 組合員の食生活見直しをサポートできる取り組みを進めます
	⑰ ピンクリボン運動を応援し、乳がんに対する啓蒙と患者や家族の支援を進めます
	⑱ 持続可能な生協福祉事業に向け、生協介護のブランド・標準化と、生協福祉事業中長期戦略を検討します

## II. 詳細

### 1. 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます。

#### (1) 全国生協の行動宣言

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、持続可能な社会づくりをめざします。国内外の人々、そして限りある地球資源へ思いを寄せ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エシカル消費や持続可能な社会に関する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。

#### 【貢献できる SDGs の目標】

##### 《おもな目標》



持続可能な生産消費形態を確保する

##### 《関連する目標》



#### (2) SDGs 方針 2018 のふりかえり

エシカル消費対応商品の開発や普及、組合員への学習会や試食会などを進めた結果、供給高は前年を上回り、MSC など水産部門の認証商品の構成比も向上しました。RSPO 認証パーム油使用商品の開発と拡大を通じて、持続可能な調達に関する取り組みを推進しました。プラスチックごみが問題になるなか、包材の減量化や再生プラスチック・植物由来プラスチックの使用を拡大しました。食品ロスなど廃棄物問題への対応のため、商品廃棄の削減を進めました。

調達先や会員生協とともに、安全衛生・品質管理レベルの向上に取り組みました。

#### <方針①> エシカル消費対応商品の開発や普及を通じて、組合員のエシカル消費に対する理解と利用拡大を進めます

実施計画	ふりかえり
<p>エシカル消費対応商品の利用拡大を進め、持続可能な地球環境や地域社会づくりにつながる取り組みを推進します。MSC や RSPO など認証商品の拡大を通じて、責任ある調達を推進します。</p> <p>また、「エシカル消費の種」などの学習ツールを使い、組合員におけるエシカル消費の理解促進を進めることで、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環づくりに貢献します。</p>	<p>エシカル消費対応商品の開発や普及を進めた結果、供給高は前年を上回り、MSC など水産部門の認証商品のシェア率も向上しました。</p> <p>「スラウェシ島エビ養殖業改善プロジェクト」への取り組みや、RSPO 認証パーム油使用商品の開発と拡大を通じて、持続可能な調達に関する取り組みを推進しました。</p> <p>エシカル消費に対する学習会や試食会などを実施し、組合員における理解促進に貢献しました。</p>

#### <方針②> 環境に配慮した包材への切り替えを進めるとともに、包材そのものの減量化にも取り組みます

実施計画	ふりかえり
<p>商品のみならず包材についても、減量化や再生プラスチック・植物由来プラスチックを使用した包材へ切り替えます。</p> <p>CO・OP 商品に使用する紙製資材について、再生原料を使用するか、FSC 認証紙への切り替えを進めます。</p>	<p>プラスチックごみが問題になるなか、再生プラスチック・植物由来プラスチックを使用した包材を拡大するとともに、トレイ等を省く・包材を薄くするなど減量化を進めました。</p> <p>森の豊かさを守る取り組みとして、CO・OP 商品に使用する紙製容器や段ボールの FSC 認証化に取り組みました。</p>

<b>&lt;方針③&gt;商品廃棄の削減を進めるとともに、廃棄がやむを得ない場合にはフードバンクへの寄付などを通じた有効活用や、廃棄品のリサイクルに取り組みます</b>	
<b>実施計画</b>	<b>ふりかえり</b>
CO・OP商品の廃棄削減の取り組みを強化します	想定した水準よりも廃棄量が増えてしまったため、さらなる削減が課題です。
<b>&lt;方針④&gt;調達先ならびに会員生協とともに、安全衛生・品質管理レベルの向上に取り組みます</b>	
<b>実施計画</b>	<b>ふりかえり</b>
製造委託先工場の安全衛生レベルの向上と、日本生協連の工場評価・点検業務の迅速化・効率化を進めます。	全取引先にてJFS-B規格を取り入れた新たな点検帳票を実施するための準備を進めました。

### (3) 2019年度の方針と実施計画

2019年度は、「海と森の資源を守る」「プラスチック対応」を重点課題として、エシカル消費対応商品の開発と普及をさらに推し進めます。また、CO・OP商品に続きカタログ事業でも、取引先企業におけるCSR対応状況を確認するなど、「責任ある調達」に関する取り組みを強化します。加えて食品ロスの問題に対応するため、特定の商品について、入在庫期限1/2までの緩和と賞味期間表示の“年月”表示化に関する取り組みを新たに進めます。

<b>&lt;方針①&gt;持続可能な生産と消費のために、食料・農業政策づくりを進めます</b>	
<b>実施計画</b>	
食料農業問題に関する生活協同組合の取り組み課題をまとめるとともに、政府の食料・農業・農村基本計画の改定に対して働きかけを行います。	
<b>&lt;方針②&gt;エシカル消費対応商品の開発や普及を通じて、組合員のエシカル消費に対する理解と利用拡大を進めます</b>	
<b>実施計画</b>	
エシカル消費対応商品の開発と利用拡大、ならびに国外プロジェクトへの支援等を通じて、持続可能な地球環境や地域社会づくりに取り組みます。MSC・ASC・MEL認証商品の拡大や家庭用品分野でのRSPO認証パーム油原料使用商品の拡大、「責任ある調達」に関する取り組みを推進します。	
<b>&lt;方針③&gt;プラスチックごみや森林資源の枯渇などの問題へ対応するため、環境に配慮した包材への切り替えを進めるとともに、包材そのものの減量化に取り組みます</b>	
<b>実施計画</b>	
包材の減量化に取り組むとともに、再生プラスチック・植物由来プラスチックを使用した包材を拡大します。CO・OP商品に使用する紙製資材の再生原料またはFSC認証への切替えを進めます。	
<b>&lt;方針④&gt;サプライチェーン全体における食品ロス削減に取り組むとともに、日本生協連として商品廃棄の削減を進めます</b>	
<b>実施計画</b>	
食品ロスが問題化するなか、賞味期間180日以上ドライ商品に関し、会員生協に入在庫期限1/2までの緩和を呼びかけます。同様にCO・OP商品のうちドライ食品・飲料・菓子を対象に、業界動向に配慮しながら賞味期間の“年月”表示化を取引先とともに推進します。あわせてCO・OP商品の廃棄削減の取り組みを強化します。	
<b>&lt;方針⑤&gt;調達先ならびに会員生協とともに、安全衛生・品質管理レベルの向上に取り組みます</b>	
<b>実施計画</b>	
製造委託先工場の安全衛生レベルの向上と、日本生協連の工場評価・点検業務の迅速化・効率化を推進します。	

**<方針⑥>取引先とのパートナーシップにより「責任ある調達」を推進します**



**実施計画**

CO・OP 商品に続きカタログ事業でも、特定商品の製造企業における CSR 対応状況の確認を開始します。

## 2. 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

### (1) 全国生協の行動宣言

私たちは、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対して、意欲的な温室効果ガス削減目標（2030年環境目標）を掲げ、省エネルギーと再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売を広げ、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。

【貢献できる SDGs の目標】	
<p>《おもな目標》</p>  <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p>	<p>《関連する目標》</p>  <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>
<p>すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。</p>	

### (2) SDGs 方針 2018 のふりかえり

日本生協連グループの「2020年温室効果ガス削減計画」に基づき省エネルギーと低炭素電力の利用を進めた結果、昨年度よりもCO2排出量を削減することができました。会員生協に対し「2030年の温室効果ガス削減計画」の策定支援として全国各地でセミナー・学習会を実施し、55生協の参加を得ることができました。

「再エネ開発研究会」にて、全国生協の再生可能エネルギー開発支援策の検討を進め、「生協のための 再生可能エネルギー開発の流れと7つのポイント」をまとめました。

＜方針⑤＞「2030 環境目標」にコミットし、2030 年を視野に入れた温室効果ガス削減の取り組みを推進するとともに、会員生協の 2030 年に向けた削減計画の策定支援を行います	
実施計画	ふりかえり
<p>日本生協連グループの「2020年温室効果ガス削減計画」に基づき温暖化対策を推進します。</p> <p>また、会員生協における「2030年温室効果ガス削減計画」の策定支援を行います。</p>	<p>日本生協連と CX カーゴにおいて省エネルギーと低炭素電力の利用（地球クラブの電気の低炭素化）を進めた結果、昨年度よりもCO2排出量を削減することができました。</p> <p>また、会員生協に「2030年の削減計画」の策定を呼びかけるため全国各地でセミナー・学習会を実施し、55生協の参加を得ることができました。</p>
＜方針⑥＞2030年の再エネ開発目標(2030年度に300MW)実現に向け、再生可能エネルギーの電源開発を推進します	
実施計画	ふりかえり
<p>日本生協連の物流施設を利用した太陽光発電を継続します。</p> <p>「再エネ開発研究会」を通じて、全国生協の再生可能エネルギー開発支援策の検討を進めます。</p>	<p>物流施設を利用した太陽光発電による発電量は7,881,310kwhとなり、昨年度より若干増加しました。</p> <p>また、「再エネ開発研究会」を設置して会員生協とともに開発策の検討に着手しました。アウトプットとして「生協のための再生可能エネルギー開発の流れと7つのポイント」をまとめました。</p>

### (3) 2019年度の方針と実施計画

日本生協連の「2020年までの温室効果ガス削減計画」達成に向け、「再生可能エネルギーの利用拡大」を新たに実行計画に加えました。

「再エネ開発研究会」で「全国生協の2030年までの再エネ開発ロードマップ」をまとめることに対応し、日本生協連としての再エネ開発ロードマップを作成する旨の課題を追加しました。

<b>&lt;方針⑦&gt;「2030 環境目標」にコミットし、2030 年を視野に入れた温室効果ガス削減の取り組みを推進するとともに、会員生協の 2030 年に向けた削減計画の策定支援を行います</b>
--

<b>実施計画</b>
-------------

日本生協連グループの「2020年温室効果ガス削減計画」に基づき温暖化対策を推進し、省エネルギーとともに再生可能エネルギーの利用を拡大します。また、会員生協における「2030年温室効果ガス削減計画」の策定支援を継続します。
--

<b>&lt;方針⑧&gt;2030年の再エネ開発目標(2030年度に300MW)実現に向け、再生可能エネルギーの電源開発を推進します</b>
---

<b>実施計画</b>
-------------

「再エネ開発研究会」にて、全国生協の再生可能エネルギー開発の具体策を検討するとともに、2030年に向けた開発ロードマップをアウトプットとしてまとめます。また、日本生協連として、物流施設を利用した太陽光発電を継続するとともに、2030年に向けた再エネ開発ロードマップを作成します。
---



### 3. 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

#### (1) 全国生協の行動宣言

私たちは、誰一人取り残さない世界をめざして、世界が抱える問題についての理解を深め、助け合いの精神を貫き、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、話し合う活動を広げ、子ども食堂やフードバンク・フードドライブなどの取り組みを進めます。

【貢献できる SDGs の目標】	
<p>《おもな目標》</p>  <p>あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。</p>	<p>《関連する目標》</p>    

#### (2) SDGs 方針 2018 のふりかえり

「CO・OP×レッドカップキャンペーン」や「コアノンスマイルスクールプロジェクト」など商品供給による途上国支援を行うとともに、ユニセフリーダーセミナーなど国際機関との連携を通じて、世界から貧困と飢餓をなくす取り組みを支援しました。

＜方針⑦＞国際機関との連携や寄付金付商品等の展開を通じて、世界から貧困と飢餓をなくす取り組みを支援します	
実施計画	ふりかえり
<p>「CO・OP×レッドカップキャンペーン」を通じて、カンボジアのこどもたちの学校給食支援を進めます。「コアノンスマイルスクールプロジェクト」によって、アンゴラの学校づくりと安全な水・衛生環境の提供支援を進めます。</p> <p>ユニセフリーダーセミナーやスタディツアーなどを通じてユニセフへの理解促進に取り組みます。</p>	<p>「CO・OP×レッドカップキャンペーン」として、対象商品 1 個につき 1 円を国連 WFP 協会に寄付しています。児童の栄養改善、就学率・出席率の向上、学校給食運営のために活用され、2018 年度には 488 万円を寄付しました（累計 2,100 万円）。「コアノンスマイルスクールプロジェクト」として、アンゴラ共和国の“子どもにやさしい学校づくり”を支援するために、「CO・OP コアノンロール」1 パック 1 円をユニセフに寄付しています。2018 年度は 1,091 万円を寄付しました（累計約 9,200 万円）。</p> <p>ユニセフリーダーセミナーの場で、募金の意義や活動などについて学習や交流を深めました。</p>

#### (3) 2019 年度の方針と実施計画

2018 年度に引き続き、ユニセフとの連携や「CO・OP×レッドカップキャンペーン」など寄付金付商品の展開を通じて、世界から貧困と飢餓をなくす取り組みを支援します。

＜方針⑨＞国際機関との連携や寄付金付商品等の展開を通じて、世界から貧困と飢餓をなくす取り組みを支援します	
実施計画	
「CO・OP×レッドカップキャンペーン」を通じて、カンボジアのこどもたちの学校給食支援を進めます。	
「コアノンスマイルスクールプロジェクト」によって、アンゴラの学校づくりと安全な水・衛生環境の提供支援を進めます。	
ユニセフリーダーセミナーやスタディツアーなどを通じてユニセフへの理解促進に取り組みます。	

#### 4. 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します

##### (1) 全国生協の行動宣言

私たちは、「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みを進めます。

私たちは、次の世代に被爆・戦争体験を継承し、日本国憲法の基本原則である平和主義のもと世界平和の実現に積極的に貢献します。

##### 【貢献できる SDGs の目標】

###### 《おもな目標》



持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。

###### 《関連する目標》



##### (2) SDGs 方針 2018 のふりかえり

核兵器廃絶、被爆・戦争体験の継承の取り組みとして、「ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ」、「沖縄戦跡基地めぐり」を実施しました。また、「ヒバクシャ国際署名」に取り組み、国連に対して署名目録を提出しました。

##### ＜方針⑧＞核兵器廃絶、被爆・戦争体験の継承の取り組みなど、平和な社会を目指す活動を推進します

実施計画	ふりかえり
<p>会員生協の平和活動の支援（ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ、沖縄戦跡基地めぐり等）を進めます。 ヒバクシャ国際署名に取り組みます。</p>	<p>「ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ」では「虹のひろば」の開催や被爆者の証言、フィールドワークを通じて学ぶ場となりました。「沖縄戦跡基地めぐり」については親子での参加も促進し、沖縄での地上戦や米軍基地が集中している現状について見学も含めて学習を行いました。 「ヒバクシャ国際署名」の取り組みを推進し、国連に対し、生協集約分として集まった 205 万人分を含む 800 万人（累計）の署名目録を提出しました。</p>

##### (3) 2019 年度の方針と実施計画

引き続き、「ヒバクシャ国際署名」を通じた核兵器廃絶に向けた取り組み、「ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ」などの被爆・戦争体験の継承の取り組みを推進します。




##### ＜方針⑩＞核兵器廃絶、被爆・戦争体験の継承の取り組みなど、平和な社会を目指す活動を推進します

実施計画
<p>会員生協の平和活動の支援（ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ、沖縄戦跡基地めぐり等）を進めるとともに、ヒバクシャ国際署名に引き続き取り組みます。</p>

## 5. ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します

### (1) 全国生協の行動宣言

私たちは、地域における活動を通じて、社会のジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。女性も男性も、誰もが元気に、生きがいを持って働き続けられる生協づくりを進めます。

【貢献できる SDGs の目標】	
<p>《おもな目標》</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 5px; text-align: center; width: 40px;"> <b>5</b>  <small>ジェンダー平等を 実現しよう</small> </div> <div style="margin-left: 10px;">  </div> </div> <p>ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。</p>	<p>《関連する目標》</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 5px; text-align: center; width: 40px;"> <b>8</b>  <small>働きがいも 経済成長も</small> </div> <div style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 5px; text-align: center; width: 40px;"> <b>10</b>  <small>人や国の不平等 をなくそう</small> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;">   </div>

### (2) SDGs 方針 2018 のふりかえり

全国生協の女性職員、女性幹部を対象にした交流会を開催しました。日本生協連において、女性職員活躍推進を目的にメンター制度を実施するとともに、職員が健康で活躍できる職場づくりを目指し、時間外労働の削減を進めました。

＜方針⑨＞全国の生協で働く女性が活躍し、役割発揮できる職場づくりを支援します	
実施計画	ふりかえり
全国生協の女性職員、女性幹部を対象にした交流会を実施します。	<p>女性職員交流会『生協で働く』を考える』を開催し、生協で働く女性を感じる困難などについてディスカッションを行いました。</p> <p>女性管理職を対象に「女性幹部交流会」を開催し、他企業の女性役員の講演、コミュニケーションスキル研修、グループ・全体交流を通じて交流を行いました。</p>
＜方針⑩＞日本生協連で働く女性職員をはじめ様々な世代・雇用形態の職員が、健康に働き、能力発揮できる職場づくりを推進します	
実施計画	ふりかえり
女性活躍推進を目的に、メンター制度やキャリア継続に関する施策を実施します。職員の健康配慮のため時間外労働を削減します。	<p>メンター制度を実施し、参加者がキャリアについて考え管理職についてのイメージを持つ機会となりました。育休後の両立支援・キャリア開発支援を目的に、「育休復職後セミナー」や「育休復職者を持つ上司向けセミナー」を新たに実施しました。</p> <p>長時間労働を最重点リスクに位置づけ、前年よりも時間外労働の削減を進めましたが、想定した水準に満たなかったため、引き続き取り組みを進めます。</p>

### (3) 2019 年度の方針と実施計画

引き続き、全国生協の女性職員や女性幹部を対象にした交流会を継続し、全国の生協で働く女性が活躍し、役割発揮できる職場づくりを支援します。

日本生協連において、性別やハンディキャップの有無に関わらず能力発揮できる環境づくりのため、メンター制度やキャリア継続をサポートする施策を実施するとともに、障がい者雇用拡大のための条件整備を研究します。また、ワークライフバランスを推進し、時間外労働の削減に取り組みます。

**<方針⑪> 全国の生協で働く女性が活躍し、役割発揮できる職場づくりを支援します**

**実施計画**

全国生協の女性職員、女性幹部を対象にした交流会を実施します。

**<方針⑫> 日本生協連で働く女性職員をはじめ様々な世代・雇用形態の職員が、健康に働き、能力発揮できる職場づくりを推進します**

**実施計画**

女性活躍推進を目的に、メンター制度やキャリア継続をサポートする施策を検討・実施します。様々な世代・雇用形態の職員が、健康に働き、能力発揮できる職場づくりを目指し、障がい者雇用拡大のための条件整備を研究するとともに、時間外労働の削減に取り組みます。

## 6. 誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します

### (1) 全国生協の行動宣言

私たちは、誰一人取り残さず、安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売や配食事業など、生協の事業や活動のインフラを活用し、地域における役割発揮を進めます。

#### 【貢献できる SDGs の目標】

##### 《おもな目標》



包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

##### 《関連する目標》



### (2) SDGs 方針 2018 のふりかえり

「地域包括ケア」のモデルづくりを推進し、厚労省の「生協が行う地域福祉の先駆的な取組事例」にて 17 事例が取りまとめられました。「子どもの未来アクション」の講習会を全国で実施し、生協内外の方々に広くアンバサダー登録をしていただきました。

「暮らし・地域復興応援募金」を全国の生協に呼びかけ、合計で約 6,300 万円が寄せられました。寄付金は福島の子ども保養プロジェクト、被災地生協のボランティア活動支援に活用されました。

#### <方針⑪>子どもや高齢者、障がい者など様々な人々が暮らしやすい地域社会を目指して、諸団体と連携した取り組みを進めます

実施計画	ふりかえり
<p>「地域包括ケア」のモデルづくりを推進します。生協職員内の認知症サポーターを拡大します。</p> <p>諸団体と連携して「子どもの未来アクション」の活動を推進します。また、「障害者ノルディックスキー日本チーム」を支援します。</p>	<p>「地域包括ケア」のモデルづくりを推進し、厚労省の「生協が行う地域福祉の先駆的な取組事例」にて高齢者サービスや障がい者支援など 17 事例が取りまとめられました。認知症サポーター養成講座が全国で開催され、生協職員内でのサポーターが広がりました。</p> <p>「子どもの未来アクション」の講習会を全国で実施し、生協内外の方々に広くアンバサダー登録をしていただきました。「CO・OP 応援食クッキー」を通じて、障害者ノルディックスキーチームに寄付する取り組みを進めました。</p>

#### <方針⑫>被災地ならびに被災地生協への復興支援の取り組みを推進します

実施計画	ふりかえり
<p>「暮らし・地域復興応援募金」の呼びかけや、災害・復興支援交流会を開催します。宅配企画を通じて「福島子ども子育て応援募金」を実施します。</p> <p>「放射性物質摂取量調査」の実施を継続します。</p>	<p>「暮らし・地域復興応援募金」での寄付金額は約 6,300 万円となり、福島の子ども保養プロジェクト、被災地生協のボランティア活動支援に活用されています。なお、2011 年の東日本大震災以降 2017 年度まで、義援金、支援金合わせて全国の生協グループ全体で約 44 億円の募金が取り組まれています。2018 年度は西日本豪雨や北海道胆振東部地震で募金を呼びかけ、あわせて 13 億を超える募金が寄せられました。</p> <p>通販カタログの購入金額の一部を、福島県で子ども・子育てのコミュニティづくりに取り組んでいる NPO 団体へ助成しました。</p>

	東京電力福島第一原子力発電所の事故以来、会員生協とともに家庭の食事からの放射性物質摂取量調査を実施しています。2018年度に調査したすべてのサンプルで、検出限界以上の放射性セシウムは検出されませんでした。
--	--

### (3) 2019年度の方針と実施計画

子どもや高齢者、ハンディキャップのある方々も暮らしやすい地域社会づくりを目指して、引き続き認知症サポーターの拡大に向けた取り組みや、「子どもの未来アクション」の活動に取り組みます。被災地ならびに被災地生協への復興支援の取り組みとして、募金を継続します。

頻発する災害や気候変動に対応するため、「災害対策マニュアル」を改定するとともに、行政、NPO等との連携・協働を深化させます。

<b>&lt;方針⑬&gt; 子どもや高齢者、障がい者など様々な人々が暮らしやすい地域社会を目指して、諸団体と連携した取り組みを進めます</b>	
<b>実施計画</b>	
生協職員内の認知症サポーターを拡大します。諸団体と連携して「子どもの未来アクション」の活動を推進します。寄付金付商品の展開を通じて、「障害者ノルディックスキー日本チーム」を支援します。	
<b>&lt;方針⑭&gt; 被災地ならびに被災地生協への復興支援の取り組みを推進します</b>	
<b>実施計画</b>	
「くらし・地域復興応援募金」の呼びかけや、災害・復興支援交流会を開催します。また、宅配企画を通じて「福島子ども子育て応援募金」を実施します。「放射性物質摂取量調査」の実施を継続します。	
<b>&lt;方針⑮&gt; 災害に強い地域・組織づくりに取り組みます</b>	
<b>実施計画</b>	
行政、NPO等との連携・協働を深化させます。災害時の事業継続の課題にも対応するため、「災害対策マニュアル」を改定します。	

## 7. 健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

### (1) 全国生協の行動宣言

私たちは、食生活、運動、社会参加の視点から健康づくりを進めます。安全・安心はもとより、より健康な食生活に向けた商品事業と組合員活動を推進します。生活習慣病や介護予防など「予防」を重視し、福祉事業や助け合い活動を広げ、自治体や諸団体と連携し、地域包括ケアシステムのネットワークに参画します。

#### 【貢献できる SDGs の目標】

##### 《おもな目標》



あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

##### 《関連する目標》



### (2) SDGs 方針 2018 のふりかえり

「ヘルシーコープ」の推進や「私の健康、食習慣チェック活動」(BDHQ 簡易型自記式食事歴法質問票)の取り組みを通して、組合員の食生活見直しの取り組みを進めました。ピンクリボン運動に協賛し、商品展開を通じて日本乳がんピンクリボン運動に寄付しました。

生協の介護サービスの標準化と質の向上のため「生協10の基本ケア」の導入拡大に取り組みました。また、生協福祉事業の中長期戦略の検討を進めました。

#### <方針⑬> 学習会や商品展開を通して、組合員の食生活見直しの取り組みを進めます

実施計画	ふりかえり
「ヘルシーコープ」のレシピ開発と売り場提案を行います。 また、「私の健康、食習慣チェック活動」に関する学習会を実施し、取り組み生協の拡大を図ります。	「ヘルシーコープ」の取り組みとして、「手軽にとれる」、「おいしく減らす」マーク付商品の開発、ヘルシーレシピの製作、売場提案などを行いました。 「私の健康、食習慣チェック活動」に関して BDHQ (簡易型自記式食事歴法質問票)の学習会を実施し、21 生協の参加を得ることができました。

#### <方針⑭> ピンクリボン運動を応援し、乳がんに対する啓蒙と患者や家族の支援を進めます

実施計画	ふりかえり
コープ化粧品と「くらしと生協」での商品展開を通じて、日本乳がんピンクリボン運動への寄付を実施します。	ピンクリボン運動に協賛し、コープ化粧品と「くらしと生協」を通じて J-POSH (日本乳がんピンクリボン運動) に約 150 万円を寄付しました。

#### <方針⑮> 持続可能な生協福祉事業に向け、生協介護のブランド・標準化と、生協福祉事業中長期戦略を検討します

実施計画	ふりかえり
生協の介護サービスの標準化と質の向上のため「生協10の基本ケア」の導入拡大と定着を進めます。 生協福祉事業の中長期戦略の検討を進めます。会員生協の事業モデルの転換と既存事業立て直しを支援します。	「生協10の基本ケア講座」を開催し、「10の基本ケア」導入をめざす「チャレンジ法人」は30法人となりました。 福祉事業中長期戦略委員会にて、生協組織全体における福祉事業の位置づけや組織のあり方について検討をすすめました。 会員生協の事業モデルの転換と既存事業立て直し

	を支援し、従来の在宅系サービス(個別サービス)から、地域密着型サービスを核事業とした複合型事業モデル(包括型サービス)への転換推進をはかりました。
--	---

### (3) 2019年度の方針と実施計画

「ヘルシーコープ」の展開や「私の健康、食習慣チェック活動」(BDHQ)の推進を通じて、組合員の食生活見直しをサポートできる取り組みを進めます。また、ピンクリボン運動を応援し、乳がんに対する啓蒙と患者や家族の支援を進めます。

引き続き「生協10の基本ケア講座」の導入拡大を進め、「チャレンジ法人」数の増加を目指します。福祉事業中長期戦略委員会にて、生協福祉事業の中長期戦略に関する最終案をとりまとめます。会員生協の事業モデルの転換(地域密着型サービスと24時間型サービス等)と、既存事業の立て直しを支援します

#### <方針⑯> 組合員の食生活見直しをサポートできる取り組みを進めます

##### 実施計画

「ヘルシーコープ」のレシピ開発を進めます。また、「私の健康、食習慣チェック活動」(BDHQ)の取り組み生協の拡大を図ります

#### <方針⑰> ピンクリボン運動を応援し、乳がんに対する啓蒙と患者や家族の支援を進めます

##### 実施計画

コープ化粧品と「くらしと生協」での商品展開を通じて、日本乳がんピンクリボン運動への寄付を実施します

#### <方針⑱> 持続可能な生協福祉事業に向け、生協介護のブランド・標準化と、生協福祉事業中長期戦略を検討します

##### 実施計画

生協の介護サービスの標準化と質の向上のため「生協10の基本ケア」の導入拡大と定着を進めます。生協福祉事業の中長期戦略の検討を進めます。会員生協の事業モデルの転換と既存事業立て直しを支援します。



## 【参考】SDGsの17の目標

17の目標	目標の内容
	目標1(貧困をなくそう) あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。
	目標2(飢餓をゼロに) 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
	目標3(保健) あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
	目標4(教育) すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
	目標5(ジェンダー) ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。
	目標6(水・衛生) すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。
	目標7(エネルギー) すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。
	目標8(経済成長と雇用)包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。
	目標9(インフラ、産業化、イノベーション) 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。
	目標10(不平等をなくそう) 各国内及び各国間の不平等を是正する。
	目標11(持続可能な都市) 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。
	目標12(つくる責任、つかう責任) 持続可能な生産消費形態を確保する。
	目標13(気候変動) 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
	目標14(海洋資源) 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
	目標15(陸上資源) 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。
	目標16(平和) 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。
	目標17(実施手段) 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。